

大学の世界展開力強化事業 構想概要 一橋大学

【構想の名称】(タイプA-I)

アジア・ビジネスリーダー・プログラム。

【構想の概要】

Asia Business Leaders Program(ABLP)とは、一橋大学大学院国際企業戦略研究科(ICS)、北京大学光華管理学院(PKU)及びソウル大学経営学部・経営専門大学院(SNU)が結んだBEST Allianceを活用して行われる、革新的でグローバルな教育プログラムである。Allianceを最大限に活用して、MBAプログラムの学生対象のダブルディグリー・プログラム、学期間交換留学プログラム、3週間の短期集中プログラムのコア活動に加えて、ICS、PKU、SNU教員のチームによる共同研究、その成果を発表するシンポジウム、日、中、韓のグローバルCEOフォーラムなどの教育研究支援プログラムも実施される。

■ プログラムの目的・養成する人材像

○ 東アジアのビジネスリーダー

ABLPは、将来の東アジアのビジネスリーダーの育成を目標としている。このようなビジネスリーダーが備えるべき特性と知識とは、1)アジアの経済、政治、社会制度、文化、商慣習に対する理解、2)東アジアにおける企業のグローバル化に対応できるスキル、3)3カ国における現在そして将来のビジネスモデルとその構築に必要なリーダーシップの理解、の3点である。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成

○ BEST Alliance

一橋大学大学院国際企業戦略研究科(ICS)、北京大学光華管理学院(PKU)、ソウル大学経営学部・経営専門大学院(SNU)は、BEST Allianceを結び、日中韓の将来のビジネスリーダーを育成するための協働教育プログラム構築に合意した。BESTとはBeijing、Seoul、Tokyoに由来する。

○ 日本、中国、韓国のビジネスリーダー育成の協働教育プログラム策定

アジア・ビジネスリーダー・プログラムでは、日、中、韓のトップ・ビジネススクールが協働して、将来の日、中、韓の経済界のビジネスリーダーを育成するための教育プログラムが設計される。この新教育プログラムを通じて、日、中、韓の未来のビジネスリーダーである学生は、日、中、韓のビジネスシステムを深く学び、グローバル化した企業内で活躍するための専門知識を磨きあげ、緊密で良好で持続的な関係基盤を構築する。教育プログラムによってICS、PKU、SNUの個々のカリキュラムと成績評価及び単位認定基準の調和はさらに促進され、学術国際連携の新たなベスト・プラクティスが誕生する。

○ ABLPのプログラム

ABLPのコア・プログラムは、MBAプログラムの学生を対象としたダブルディグリー・プログラム、学期間交換留学プログラム、及び短期集中プログラムの3つの教育プログラムである。これらの教育プログラムのサポートプログラムとして日、中、韓の企業インターンシップである「ビジネス・フロンティア・インターンシップ・プログラム」、3カ国の主要企業のCEOによる講演を行う「グローバルCEOフォーラム」、東アジアのビジネスに関して2年に1回開かれるBESTシンポジウム、BEST提携研究プロジェクト(ICS、PKU、SNUの教員のチームによる共同研究)等がある。

〈BESTアライアンス提携プレス発表〉



■ 教育内容の可視化・成果の普及

○ 日、中、韓国のビジネスリーダー育成のカリキュラムを開発、世界に発信

1) 東アジアに適したビジネスモデルとリーダーシップのスタイルに基づき、日、中、韓の将来のビジネスリーダーを教育するためのカリキュラムを開発する。2) 教育の質に関する共通の基準(学生の評価、カリキュラムの評価、3大学間の単位認定に関する基準)を作成し、アジア地域に合わせた教育を提供することによって、アジア企業の未来のリーダーを育成する。3) 3大学の協働教育の成果報告及びその他のメディアを活用した社会普及活動を通じて、日、中、韓のみならず他のアジアの高等教育機関の連携のさきがけとなり、ビジネス教育プログラムの協働教育モデルを世界に発信する。

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ 日、中、韓、共通の英語によるグローバルMBA

3大学は、グローバルMBAプログラムとして実質的に同等なカリキュラム、成績評価方式及び単位認定システムを備えている。3プログラム全てで英語によるMBAプログラムが用意されており、各大学の教員とプログラム・ディレクターは高い英語力をもち、教材と学生に関する各種資料も英語で作成されている。3大学は交換留学生の受入れ、ならびに海外への交換留学生の派遣に関して十分な経験を備えている。

○ 留学生受け入れに確かな実績

ICSは毎年海外の大学から約7~9名の交換留学生を受入れている。文部科学省による「ヤング・リーダーズ・プログラム」を通じて、アジアの留学生を15~16名受入れている。したがって、ICSは外国人学生のサポートに関する経験・インフラがともに充実している。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

2名のダブルディグリー・プログラム学生、4名の学期間交換留学生、10名の3週間短期集中プログラム「Doing Business in China」(中国における事業経営)、「Doing Business in Korea」(韓国における事業経営)参加学生が、それぞれ毎年北京、ソウル両大学へ派遣される。

○ 外国人留学生の受入れ

2名のダブルディグリー・プログラム学生、4名の学期間交換留学生、10名の3週間短期集中プログラム「Doing Business in Japan」(日本における事業経営)参加学生を、それぞれ毎年、北京、ソウル両大学から受入れる。

〈ICSキャンパスとシンボルマーク〉



	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣	1	16	16	16	16
学生の受入	1	16	16	16	16

大学の世界展開力強化事業 取組実績 一橋大学

【構想の名称】(タイプAー I CAMPUS Asia Pilot Program)

アジア・ビジネスリーダー・プログラム

【プログラムの目的・養成する人材像】

日中韓3か国の大学(一橋大学、北京大学、ソウル大学)の協働によって、アジア地域発の次世代ビジネスリーダー育成プログラムの標準化モデル構築を目指します。それぞれの大学ではカリキュラムの国際化を加速すると同時に、アジア地域の特色を生かして差別化を図ります。

【構想の概要】

一橋大学・北京大学・ソウル大学の3大学協働による日中韓の次世代ビジネスリーダーを育成するプログラム。MBAプログラムの学生を対象としたダブル・ディグリー・プログラム、学期間交換留学プログラム、短期集中プログラム及び教員チームによる共同研究を実施し、定期的に3大学合同でのシンポジウムを行います。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○ ダブル・ディグリー・プログラム

一橋大学・北京大学・ソウル大学のいずれか2校でそれぞれ必要な単位数を修了した生徒は、2校からMBA学位を修得することができるようになります。平成25年9月より派遣・受入を開始する予定で、対象は各大学1名ずつ、1校あたり合計2名です。

○ 学期間交換留学

学期間に交換留学を実施することによって、交換留学生に挑戦的な学びの場を提供すると同時に、各大学の教育レベルの向上を目指します。また、3大学間の生徒の交流を深め、将来に向けた人脈作り役に役立っています。対象は各大学2名ずつ、1校あたり合計4名です。

○ 短期集中プログラム「Doing Business in Asia」

北京、ソウル、東京の各都市で3大学がそれぞれプログラムを主催します。参加者は各大学から10名、合計30名です。各都市をそれぞれ5日間訪問し、各大学で講義を受けるとともに、各都市で代表的な企業を訪問するなどの現場体験を行います。



■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況



○ 学期間交換留学生を一橋ICSからソウル大学へ派遣

アジア・ビジネスリーダー・プログラムの学期間交換留学制度を活用し、平成24年1月に一橋ICSからソウル大学へ学生を1名派遣。韓国の伝統や文化に触れる機会を得て、アジアを代表するビジネス・リーダーに向けた経験を得ることができました。

○ 専用ホームページ作成

本プログラムの取り組み、共同研究や担当教員の活動などを紹介することで、幅広く本プログラムの特長を周知できるようになりました。一橋ICSへの入学希望者には、一橋ICSの優位性や独自性をアピールすることができるようにもなりました。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 一橋ICSからの学生の派遣

ダブル・ディグリー・プログラムは北京とソウルへ各1名、学期間交換留学生は各2名の派遣が可能。短期集中プログラムは各校10名までの参加が可能。

○ 一橋ICSへの留学生の受入れ

ダブル・ディグリー・プログラムは北京、ソウルから各1名、学期間交換留学生は各2名の受入れが可能。短期集中プログラムは各校10名までの参加が可能。

	H23	H24	H25	H26	H27
日本への受入	C0, K0	C2, K0	C3, K3	C3, K3	C3, K3
中国への受入	0	2	3	3	3
韓国への受入	1	2	3	3	3

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

注) H23は実績、H24は予定、H25以降は計画。

○ 北京・ソウルへの旅費の負担と、フォローアップ体制

学期間交換留学または短期集中プログラムに参加する一橋ICSの学生は、北京またはソウルへの往復の旅費などを本プログラムが負担します。学生には、申請段階から帰国後のフォローまで、あらゆる支援を実施します。

○ 北京・ソウルからの旅費と滞在費の負担と、フォローアップ体制

学期間交換留学または短期集中プログラムに参加する北京大学およびソウル大学の学生は、一橋ICSに滞在する期間の宿舍費を本プログラムが負担します。留学生が学業に専念できるように、支援体制を充実させています。

■ 教育内容の可視化・成果の普及

○ カリキュラムの新規開発や改訂、共同研究の実施

本プログラムに参加する3大学の学生とその派遣・受入を行う一橋ICSの学生の学習の場をより良いものとするために、カリキュラムの新規開発や改訂を進めます。また、共同研究を実施し、本プログラムに成果を反映します。

○ 卒業生のネットワーク、同窓会組織の創設

本プログラムに参加し、卒業した学生のデータベースを管理し、同窓会組織を創設します。卒業生は将来的にシンポジウムやCEO講演シリーズ、短期集中プログラムなどへの参加が可能になります。

大学の世界展開力強化事業 取組概要 一橋大学

【構想の名称】(選定年度23年度(タイプA-I CAMPUS Asia Pilot Program))

アジア・ビジネスリーダー・プログラム

【プログラムの目的・養成する人材像】

日中韓3か国の大学(一橋大学、北京大学、ソウル大学)の協働によって、アジア地域発の次世代ビジネスリーダー育成プログラムの標準化モデル構築を目指します。それぞれの大学ではカリキュラムの国際化を加速すると同時に、アジア地域の特色を生かして差別化を図ります。

【構想の概要】

一橋大学・北京大学・ソウル大学の3大学協働による日中韓の次世代ビジネスリーダーを育成するプログラム。MBAプログラムの学生を対象としたダブル・ディグリー・プログラム、学期間交換留学プログラム、短期集中プログラム及び教員チームによる共同研究を実施し、定期的に3大学合同でのシンポジウムを行います。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

(BESTシンポジウム、2012年5月北京大学にて)

○ ダブル・ディグリー・プログラム

一橋大学・北京大学・ソウル大学のいずれか2校でそれぞれ必要な単位数を修了した生徒は、2校からMBA学位を修得することができるようになります。平成25年9月より派遣・受入を開始する予定で、対象は各大学1名ずつ、1校あたり合計2名です。

○ 学期間交換留学

学期間に交換留学を実施することによって、交換留学生に挑戦的な学びの場を提供すると同時に、各大学の教育レベルの向上を目指します。また、3大学間の生徒の交流を深め、将来に向けた人脈作りに役立てます。対象は各大学2名ずつ、1校あたり合計4名です。

○ 短期集中プログラム「Doing Business in Asia」

東京、北京、ソウルの各都市で3大学がそれぞれプログラムを主催します。参加者は各大学から10名ずつ選抜、合計30名です。各都市をそれぞれ5日間訪問し、各大学で講義を受けるとともに、各都市で代表的な企業を訪問するなどの現場体験を行います。



■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

〈Doing Business in Asia : 東京モジュール 2012年8月〉



○ 短期集中プログラム「Doing Business in Asia」の開催

第1回「Doing Business in Asia」の実施により、アジアの次世代ビジネスリーダーの育成を開始することができました。また、一橋大学、北京大学、ソウル大学の現役の学生が各10名、東京、北京、ソウルにて共に行動をし、3大学の学生から成り立つチームによる、フィールドスタディやプロジェクトのプレゼンテーションを実施することにより、強力な協力関係を築くことができました。参加学生からは素晴らしいプログラムだったとの評価アンケートと感想が寄せられました。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 一橋ICSからの学生の派遣

ダブル・ディグリー・プログラムは北京とソウルへ各1名、学期間交換留学生は各2名の派遣が可能。短期集中プログラムは各校10名までの参加が可能。

○ 一橋ICSへの留学生の受入れ

ダブル・ディグリー・プログラムは北京、ソウルから各1名、学期間交換留学生は各2名の受入れが可能。短期集中プログラムは各校10名までの参加が可能。

	H23	H24	H25	H26	H27
日本(J)での受入	C 0 K 0	C 10 K 10	C 13 K 13	C 13 K 13	C 13 K 13
中国(C)での受入	J 0 K -	J 12 K -	J 13 K -	J 13 K -	J 13 K -
韓国(K)での受入	J 1 C -	J 12 C -	J 13 C -	J 13 C -	J 13 C -

注)H23・H24は実績、H25以降は計画。

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ 北京・ソウルへの旅費の負担と、フォローアップ体制

ダブル・ディグリー・プログラム、学期間交換留学または短期集中プログラムに参加する一橋ICSの学生は、北京またはソウルへの往復の旅費などを本プログラムが負担します。派遣先からは奨学金が本プログラムより支給されます。一橋ICSの学生には、申請段階から帰国後のフォローまで、あらゆる支援を実施します。

○ 北京・ソウルからの旅費と奨学金の負担と、フォローアップ体制

ダブル・ディグリー・プログラム、学期間交換留学または短期集中プログラムに参加する北京大学およびソウル大学の学生は、日本への往復の旅費などを本プログラムが負担します。また、一橋ICSに滞在する期間、奨学金が本プログラムより支給されます。留学生が学業に専念できるように、支援体制を充実させています。

■ 教育内容の可視化・成果の普及

○ カリキュラムの新規開発や改訂、共同研究の実施

本プログラムに参加する3大学の学生とその派遣・受入を行う一橋ICSの学生の学習の場をより良いものとするために、カリキュラムの新規開発や改訂を進めます。また、共同研究を実施し、本プログラムに成果を反映します。

○ 卒業生のネットワーク、同窓会組織の創設

本プログラムに参加し、卒業した学生のデータベースを管理し、同窓会組織を創設します。卒業生は将来的にシンポジウムやCEO講演シリーズ、短期集中プログラムなどへの参加が可能になります。

大学の世界展開力強化事業 取組概要 一橋大学

【構想の名称】(選定年度23年度(タイプA-I CAMPUS Asia Pilot Program))

アジア・ビジネスリーダー・プログラム

【プログラムの目的・養成する人材像】

日中韓3か国の大学(一橋大学、北京大学、ソウル大学)の協働によって、アジア地域発の次世代ビジネスリーダー育成プログラムの標準化モデル構築を目指します。それぞれの大学ではカリキュラムの国際化を加速すると同時に、アジア地域の特色を生かして差別化を図ります。

【構想の概要】

一橋大学・北京大学・ソウル大学の3大学協働による日中韓の次世代ビジネスリーダーを育成するプログラム。MBAプログラムの学生を対象としたダブル・ディグリー・プログラム、学期間交換留学プログラム、短期集中プログラム及び教員チームによる共同研究を実施し、定期的に3大学合同でのシンポジウムを行います。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

(BESTシンポジウム、2013年11月ソウル大学にて)

○ ダブル・ディグリー・プログラム



一橋大学・北京大学・ソウル大学のいずれか2校でそれぞれ必要な単位数を修了した生徒は、2校からMBA学位を修得することができます。平成25年9月より派遣・受入を開始し、対象は各大学1名ずつ、1校あたり合計2名です。

○ 学期間交換留学

学期間に交換留学を実施することによって、交換留学生に挑戦的な学びの場を提供すると同時に、各大学の教育レベルの向上を目指します。また、3大学間の生徒の交流を深め、将来に向けた人脈作りに役立ちます。対象は各大学2名ずつ、1校あたり合計4名です。

○ 短期集中プログラム「Doing Business in Asia」

東京、北京、ソウルの各都市で3大学がそれぞれプログラムを主催します。参加者は各大学から10名ずつ選抜、合計30名です。各都市をそれぞれ5日間訪問し、各大学で講義を受けるとともに、各都市で代表的な企業を訪問するなどの現場体験を行います。

■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

(Doing Business in Asia: 東京モジュール 2013年8月)



○ 短期集中プログラム「Doing Business in Asia」の開催

第2回「Doing Business in Asia」の開催により、アジアの次世代ビジネスリーダー育成を実施することができました。また、一橋大学、北京大学、ソウル大学の現役の学生が各10名、東京、北京、ソウルにて共に行動をし、3大学の学生から成り立つチームによる、フィールドスタディやプロジェクトのプレゼンテーションを実施することにより、強力な協力関係を築くことができました。参加学生からは昨年に続き、素晴らしいプログラムだったとの評価アンケートと感想が寄せられました。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 一橋ICSからの学生の派遣

ダブル・ディグリー・プログラムは北京とソウルへ各1名、学期間交換留学生は各2名の派遣が可能。短期集中プログラムは各校10名までの参加が可能。

○ 一橋ICSへの留学生の受入れ

ダブル・ディグリー・プログラムは北京、ソウルから各1名、学期間交換留学生は各2名の受入れが可能。短期集中プログラムは各校10名までの参加が可能。

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ 北京・ソウルへの旅費の負担と、フォローアップ体制

ダブル・ディグリー・プログラム、学期間交換留学または短期集中プログラムに参加する一橋ICSの学生は、北京またはソウルへの往復の旅費などを本プログラムが負担します。派遣先からは奨学金が本プログラムより支給されます。一橋ICSの学生には、申請段階から帰国後のフォローまで、あらゆる支援を実施します。

○ 北京・ソウルからの旅費と奨学金の負担と、フォローアップ体制

ダブル・ディグリー・プログラム、学期間交換留学または短期集中プログラムに参加する北京大学およびソウル大学の学生は、日本への往復の旅費などを本プログラムが負担します。また、一橋ICSに滞在する期間、奨学金が本プログラムより支給されます。留学生が学業に専念できるように、支援体制を充実させています。

■ 教育内容の可視化・成果の普及

○ カリキュラムの新規開発や改訂、共同研究の実施

本プログラムに参加する3大学の学生とその派遣・受入を行う一橋ICSの学生の学習の場をより良いものとするために、カリキュラムの新規開発や改訂を進めます。また、共同研究を実施し、本プログラムに成果を反映します。

○ 卒業生のネットワーク、同窓会組織の創設

本プログラムに参加し、卒業した学生のデータベースを管理し、同窓会組織を創設します。卒業生は将来的にシンポジウムやCEO講演シリーズ、短期集中プログラムなどへの参加が可能になります。

	H23	H24	H25	H26	H27
日本(J)での受入	C 0 K 0	C 10 K 10	C 11 K 10	C 13 K 13	C 13 K 13
中国(C)での受入	J 0 K 4	J 12 K 11	J 11 K 10	J 13 K 13	J 13 K 13
韓国(K)での受入	J 1 C 0	J 12 C 11	J 11 C 10	J 13 C 13	J 13 C 13

注)H23~H25は実績、H26以降は計画。

大学の世界展開力強化事業 H26取組概要 一橋大学

【構想の名称】(選定年度23年度(タイプA-I CAMPUS Asia Pilot Program))

アジア・ビジネスリーダー・プログラム

【プログラムの目的・養成する人材像】

日中韓3か国の大学(一橋大学、北京大学、ソウル大学)の協働によって、アジア地域発の次世代ビジネスリーダー育成プログラムの標準化モデル構築を目指します。それぞれの大学ではカリキュラムの国際化を加速すると同時に、アジア地域の特色を生かして差別化を図ります。

【構想の概要】

一橋大学・北京大学・ソウル大学の3大学協働による日中韓の次世代ビジネスリーダーを育成するプログラム。MBAプログラムの学生を対象としたダブル・ディグリー・プログラム、学期間交換留学プログラム、短期集中プログラム及び教員チームによる共同研究を実施し、定期的に3大学合同でのシンポジウムを行います。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○ ダブル・ディグリー・プログラム

一橋大学・北京大学・ソウル大学のいずれか2校でそれぞれ必要な単位数を修了した生徒は、2校からMBA学位を修得することができるようになります。平成25年9月より派遣・受入を開始し、対象は各大学1名ずつ、1校あたり合計2名です。

○ 学期間交換留学

学期間に交換留学を実施することによって、交換留学生に挑戦的な学びの場を提供すると同時に、各大学の教育レベルの向上を目指します。また、3大学間の生徒の交流を深め、将来に向けた人脈作りに役立ちます。対象は各大学2名ずつ、1校あたり合計4名です。

○ 短期集中プログラム「Doing Business in Asia」

東京、北京、ソウルの各都市で3大学がそれぞれプログラムを主催します。参加者は各大学から10名ずつ選抜、合計30名です。各都市をそれぞれ5日間訪問し、各大学で講義を受けるとともに、各都市で代表的な企業を訪問するなどの現場体験を行います。

〈BESTシンポジウム、2014年11月一橋講堂にて〉



■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

〈Doing Business in Asia: 最終モジュール(ソウル)にて 2014年8月〉



○ 短期集中プログラム「Doing Business in Asia」の開催

第3回「Doing Business in Asia」の開催により、アジアの次世代ビジネスリーダー育成を実施することができました。参加学生からは昨年に続き、素晴らしいプログラムだったとの評価アンケートと感想が寄せられました。

○ 第3回「BESTシンポジウム」の開催

ソウル大学及び北京大学から計35名の関係者を迎えてシンポジウムを開催し、短期集中プログラムや共同研究の成果発表のプレゼンテーションを行いました。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 一橋ICSからの学生の派遣

ダブル・ディグリー・プログラムは北京とソウルへ各1名、学期間交換留学生は各2名の派遣が可能。短期集中プログラムは各校10名までの参加が可能。

○ 一橋ICSへの留学生の受入れ

ダブル・ディグリー・プログラムは北京、ソウルから各1名、学期間交換留学生は各2名の受入れが可能。短期集中プログラムは各校10名までの参加が可能。

	H23	H24	H25	H26	H27
日本(J)での受入	C 0 K 0	C 10 K 10	C 11 K 10	C 8 K 10	C 13 K 13
中国(C)での受入	J 0 K 4	J 12 K 11	J 11 K 10	J 12 K 12	J 13 K 13
韓国(K)での受入	J 1 C 0	J 12 C 11	J 11 C 10	J 11 C 15	J 13 C 13

注) H23~H26は実績、H27は計画。

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ 北京・ソウルへの旅費の負担と、フォローアップ体制

ダブル・ディグリー・プログラム、学期間交換留学または短期集中プログラムに参加する一橋ICSの学生については、北京またはソウルへの往復の旅費などを本プログラムが負担します。派遣先に滞する期間、奨学金が本プログラム(受入校)より支給されます。一橋ICSの学生には、申請段階から帰国後のフォローまで、あらゆる支援を実施します。

○ 北京・ソウルからの旅費と奨学金の負担と、フォローアップ体制

ダブル・ディグリー・プログラム、学期間交換留学または短期集中プログラムに参加する北京大学およびソウル大学の学生については、日本への往復の旅費などを本プログラムが負担します。また、一橋ICSに滞する期間、奨学金が本プログラムより支給されます。留学生が学業に専念できるように、支援体制を充実させています。

■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況

情報の公開・成果の普及

○ カリキュラムの新規開発や改訂、共同研究の実施

本プログラムに参加する3大学の学生とその派遣・受入を行う一橋ICSの学生の学習の場をより良いものとするために、カリキュラムの新規開発や改訂を進めます。また、共同研究を実施し、本プログラムに成果を反映します。

大学の世界展開力強化事業 H27取組概要 一橋大学

【構想の名称】(選定年度23年度(タイプA-I CAMPUS Asia Pilot Program))

アジア・ビジネスリーダー・プログラム

【プログラムの目的・養成する人材像】

日中韓3か国の大学(一橋大学、北京大学、ソウル大学)の協働によって、アジア地域発の次世代ビジネスリーダー育成プログラムの標準化モデル構築を目指します。それぞれの大学ではカリキュラムの国際化を加速すると同時に、アジア地域の特色を生かして差別化を図ります。

【構想の概要】

一橋大学・北京大学・ソウル大学の3大学協働による日中韓の次世代ビジネスリーダーを育成するプログラム。MBAプログラムの学生を対象としたダブル・ディグリー・プログラム、学期間交換留学プログラム、短期集中プログラム及び教員チームによる共同研究を実施し、定期的に3大学合同でのシンポジウムを行います。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

〈 Doing Business in Asia : 2015年8月東京にて〉

○ ダブル・ディグリー・プログラム

一橋大学・北京大学・ソウル大学のいずれか2校において必要な単位数を修了した生徒は、2校からMBA学位を修得することができます。平成25年9月より派遣・受入を開始し、対象は各大学1名ずつ、1校あたり合計2名です。

○ 学期間交換留学

学期間に交換留学を実施することによって、交換留学生に挑戦的な学びの場を提供すると同時に、各大学の教育レベルの向上を目指します。また、3大学間の生徒の交流を深め、将来に向けた人脈作りに役立てます。対象は各大学2名ずつ、1校あたり合計4名です。

○ 短期集中プログラム「Doing Business in Asia」

東京、北京、ソウルの各都市で3大学がそれぞれプログラムを主催します。参加者は各大学から10名ずつ選抜、合計30名です。各都市をそれぞれ5日間訪問し、各大学で講義を受けるとともに、各都市で代表的な企業を訪問するなどの現場体験を行います。今年度はMERSの影響でソウル大学が短期集中プログラムに参加できなかったため、一橋大学では平成27年10月にソウル大学の2日間にわたる「Study Tour」を受け入れ、一橋大学とソウル大学共同の授業や企業訪問を実施しました。



■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

〈BESTシンポジウム、2015年10月北京大学にて〉

○ 短期集中プログラム「Doing Business in Asia」の開催

第4回「Doing Business in Asia」の開催により、アジアの次世代ビジネスリーダー育成プログラムを実施することができました。参加学生からは昨年に続き、素晴らしいプログラムだったとの評価アンケートと感想が寄せられました。

○ 第4回「BESTシンポジウム」の開催

北京大学において各校の関係者とともにシンポジウムを開催し、短期集中プログラムや共同研究の成果発表のプレゼンテーションを行いました。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 一橋ICSからの学生の派遣

ダブル・ディグリー・プログラムは北京とソウルへ各1名、学期間交換留学生は各2名の派遣が可能。短期集中プログラムは各校10名までの参加が可能。

○ 外国人留学生の受入れ

ダブル・ディグリー・プログラムは北京、ソウルから各1名、学期間交換留学生は各2名の受入れが可能。短期集中プログラムは各校10名までの参加が可能。

	H23	H24	H25	H26	H27
日本(J)での受入	C 0 K 0	C 10 K 10	C 11 K 10	C 8 K 10	C 12 K 45
中国(C)での受入	J 0 K 4	J 12 K 11	J 11 K 10	J 12 K 12	J 9 K 0
韓国(K)での受入	J 1 C 0	J 12 C 11	J 11 C 10	J 11 C 15	J 10 C 5

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ 北京・ソウルへの旅費の負担と、フォローアップ体制

ダブル・ディグリー・プログラム、学期間交換留学または短期集中プログラムに参加する一橋ICSの学生については、北京またはソウルへの往復の旅費などを本プログラムが負担します。派遣先に滞する期間、奨学金が本プログラム(受入校)より支給されます。一橋ICSの学生には、申請段階から帰国後のフォローまで、あらゆる支援を実施します。

○ 北京・ソウルからの旅費と奨学金の負担と、フォローアップ体制

ダブル・ディグリー・プログラム、学期間交換留学または短期集中プログラムに参加する北京大学およびソウル大学の学生については、日本への往復の旅費などを本プログラムが負担します。また、一橋ICSに滞する期間、奨学金が本プログラムより支給されます。留学生が学業に専念できるように、支援体制を充実させています。

■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況

情報の公開・成果の普及

○ カリキュラムの新規開発や改訂、共同研究の実施

本プログラムに参加する3大学の学生とその派遣・受入を行う一橋ICSの学生の学習の場をより良いものとするために、カリキュラムの新規開発や改訂を進めます。また、共同研究を実施し、本プログラムに成果を反映します。

